

中村ブレイスの「第六回 石見銀山文化賞」受賞者が決定しました！ 2013.03.1

日時:2013年6月22日(土) 10:30開始 会場:なかむら館



特別賞 : ポルトガルギター・湯浅隆氏、及びそのユニット
「マリオネット (マンドリン・吉田剛士氏)」



解説 Marionette(マリオネット)



日本におけるポルトガルギターのパイオニア・湯浅隆と、マンドリン奏者・吉田剛士によるアコースティックユニット。独特のオリジナル音楽の創作を中心に、ファドやポピュラー音楽まで幅広い音楽活動を行っている。映画音楽、TVドラマ・ドキュメンタリー、TV番組テーマ曲、CM音楽、バレエ・演劇などの劇中音楽を数多く担当すると共に、TV・ラジオのBGMとしても数多く使われている。

95年のデビューCD「ぼるとがる幻想」は3万枚のセールスを突破し、インストゥルメンタルとしては異例のヒットを記録。以降、計13枚のアルバムを発表。98年に開催されたリスボン国際博覧会 EXPO'98の日本館主催ジャパンデーのイベントに日本代表で出演。また、同博覧会の「Festival de Guitarra Portuguesa na Expo'98」に日本人では唯一招待される。

2010年より湯浅が「マカオ観光局音楽大使」となり、一昨年には、日本・ポルトガル修好150周年に合わせて石見銀山資料館35周年記念コンサートで来市。石見銀山とヨーロッパ・世界との深い交流を身近にそして華やかに披露し、市民の多くを魅了した。国内外でのコンサートにて広く石見銀山を紹介している。

【湯浅 隆 氏】



大阪出身。14歳でギターを始め、日本ギター音楽学校を経てクラシックギターを小野剛蔵氏に師事。フォーク、ロック、ブルース、ラテンと幅広い活動を続けるうち、ポルトガルギターと出会う。87年、ポルトガルに渡り、アントニオ・シャイニーニョ氏、ルイス・ピニエイロ氏に師事、のち帰国。日本におけるポルトガルギターのパイオニアとして、ファドにとどまらない独自の境地を確立、その音楽世界は本場ポルトガルでも高く評価されている。

現在、マリオネットとして、オリジナル音楽の創作を中心に音楽活動を行う傍ら、近年は作詞・作曲家として歌手への音楽提供（グラシェラ・スサーナ「唐街雨情」他）も積極的におこなっている。2010年よりマカオ観光局音楽大使。

【吉田 剛士 氏】



神戸市出身。15歳でマンドリンを始め、80年～84年、川口雅行氏に師事。84年西ドイツに渡る。国立ヴッパータール音楽大学にてマーガ・ヴィルデン・ヒュスゲン女史に師事。87年、同校演奏家資格試験を最高点で卒業、同年帰国。88年、NHK洋楽オーディション合格。マリオネットとしての活動以外にクラシックマンドリン奏者としても活躍、高い評価を得ている。

2000年11月、初のソロCD「イタリアン・センチメント」を発表。2006年にはマリオネットの楽曲を専門に演奏する100名の団員による「マリオネット・マンドリンオーケストラ」を組織、新たなマンドリン音楽の確立に力を注いでいる。日本で唯一のマンドリン専門誌「奏でる！マンドリン」の監修も務める。